

# たのしくはたらく たより

第2号

2014. 11. 20

亀岡市東本梅町大内大坪 101-35  
TEL・FAX(0771)-26-2015  
運営法人 ㈱みんなではたらく  
編集者：前田徳宏

## 芋掘り体験会 ・ 今年は3回も実施

・ 今年も園児たちと楽しみました。



初年度（と云っても昨年からです）より始めたこの芋掘り会。今年も9月初めに園にご案内すると即座に「ぜひお願いしたいです。

よろしく…」とのことで10月7日に行いました。昨年よりも遠い畑での芋掘りでしたが、一列に並んで畑に来る姿を仲間たちとずっと見ていました。「おはようございます……」教えられたとおり挨拶も上手に終え、こちらも挨拶とお約束事などを述べ、早速芋掘りの開始。

掘り易いように前日にスコップで全部起こしておいたつもりが抜けもあり、そこを懸命に掘る子ども達につい手を差し出す仲間・ずっとしゃべりながら付き添う仲間たち。「わあっ大きい」と目を輝かす者。次々に掘り回る者などそれぞれ個性がでて興味深い。それに付き合う仲間たちに、こういう経験が皆のコミュニケーションを上達させるのだなあと感じた私です。

25畝2畝も小一時間程度で全て掘り終える。この集中力もすごいが仲間たちの協力も頼もしい。掘り終え大きな3箱に大中小に分類し入れる作業も園児たち。そしてまた一列に並んで、各箱から好きなお芋をひとつずつ夫々の名前の書いた袋に楽しそうに詰め込んでいました。最後に「このお芋はみんなのお土産。お母さんにもお土産がありますよ。ナスを持って帰って僕からのお土産だよと渡してあげてネ」そうなんです。今年はナスが一杯採れたので……こんなことが出来るのは私たちの畑の特徴だろうとなんか嬉しくなりました。



## ・ 同友会の仲間も芋掘り緊急SOS

京都中小企業家同友会の先輩より「今年はなぜか芋がダメなんよ。当座分少し分けて欲しい」こんな電話があり、早速芋掘りに来られた。数年ぶりに猪に入られた芋を植えた畑も半数近くがヤラれ、今年初めて植えた安納芋の収穫もごく僅かでしたが、さすがに芋掘りは手馴れたもの。あっという間に終了し、一輪車山盛りの安納芋と定番の鳴門金時などを持って帰ろうとされたが、「今上の畑で、園児たちの芋掘り会。一緒に掘ってあげて…」と伝えると、おっちゃん社長と息子おにいちゃんは早速園児の輪に入り、身振り手振りで一緒に掘られていた。お手伝いありがとうございました。



## ・ はるの里「芋掘りハイキング」お疲れさま。



この丁度1週間後、京都市内の「はるの里」（次々頁に寄稿文あり）からワンボックス3台に分乗し、仲間と職員、ボランティアさん

たち大勢が初めて畑に来られた。比較的重度な方々の多い生活介護事業所のため、芋掘りなど出来るだろうかと不安もなんのその。「芋掘り・芋掘りと繰り返し 楽しみにされていた方も多いんですよ」それを聞いて一安心。出来る人たちは一杯のお芋を掘るし、他の人たちはブルシートでお弁当などを味わい、晴天の秋を満喫された。芋掘りとハイキングを楽しむ会だと感じた。たとえ障害が重くても、芋掘りが出来ることを楽しんで貰えたこの企画。来年以降も続けたい。



## 今年の野菜はこんな感じ!! 失敗も・・・

●野菜って収穫できるときは時期がいつも同じで、すごい量が獲れます。普通は生産調整などで量の分散をはかるのですが、頭では分かっているにもかかわらず、未熟な私たちには、なかなか思うようには・・・が現実です。昨夏の例で云えば、きゅうりは8月のお盆前に終了。なすも9月まで持つ事はありませんでした。でも収穫できる日は、きゅうりは1日に100本近く獲れる日も・・・それでも今年は収穫できる日が、ちょっとだけ長くなった。原因は生産調整的な行為が、出来たのではなく、分かってきたからに他ならない。“出来る”と“分かる”は大違いです。まだ頭だけで分かった程度ですが。

私たちの農場では基本1畝の長さが約25mで、ひとつの野菜を大体3畝から5畝作ります。毎日出荷しても追いつくような数量ではないのも事実です。正直作りすぎと云えばそれまでですが・・・それを1畝ずつ2週間程度あけて植付けをすると継続して長く収穫できることは分かっているものの、実際はなかなかそう出来ない。しかしその兆候が芽生え始め、来年からは出来そうな気がしています。



●生き物には病気はつきもの。今年も幾つかの野菜が病気に侵されました。その筆頭はほうれんそう。いちょう病?で全てやられた。出荷し始めたとき、段々葉が黄色ずんでみるみる弱ってくる。いろいろ聞いたが石灰が足らなくてそうなってきたんでは・・・という見解?病気の他、失敗野菜も昨年同様あり出荷できないものも多くあった。カラーピーマンは苗作りの段階で消えてしまう。ジャガイモも今年は全くの不作。小粒でもあり半数近くが枯れてしまった。とうもろこしも出荷には至らず。小豆もいっぱい植えたのに小さいのが数十本のみ。獣害も少なくなかった。モロッコインゲン、とうもろこしは出荷時に食われる。そうそうさつまいもも被害にあったが量が多くて救われた。

●この地域は他地域と比べ地温が9月の中旬になると、晩秋のようになるのも特徴である。植付時期のズレは、各種野菜に顕著の現われる。まずは芽キャベツとブロッコリー・なかなか成長しないうちに寒くなりすぎた。もう少し時が経てば大きくなるのだろうか?だが専門家は望めそうにないとの見解。白菜類2種類も同様のようだ。害虫が嫌で遅めに植えたが、「遅すぎるわ」何人からもそういう声を聞いた。



●しかしながら多く収穫できたものもあります。ひとつはお米(4頁参照)。全てが私のリードだけで進めてきたので、あの袋数を見て正直ほっとした感じ。でも地主さん曰く「だけどあと100kgは増やさんと・・・」来年感張ります。その後の収穫はさつまいも。安納芋・シルクスweet・定番のなると金時の3種類を作ったが、来年は安納芋・シルクスweetだけにしよう。これらは本当に美味しいんです。そして今は、丹波黒・小粒の「こまめっこ」。1ヶ月足らずに3品の野菜が作業場の床一面を覆うほど。それを纏め直して足場を確保する嬉しい日々が続いた。



●来年1・2・3月は10反の畑に野菜は多分なし? 4月以降の収穫を目指して今植えているものが数種類あります。玉ねぎは黒豆同様1.5反の畑全面に植付を完了。苗づくりから約1ヶ月。植付が遅くまだ小さかったが・・・大玉が出来るか不安は来年収穫まで続きます。その後ソラマメも買った種と昨年作った種を同時に・・・大量に植えました。これからスナップエンドウなど越冬野菜を植える予定です。

来春が楽しみ!!

**こんな野菜の話ばかりでは退屈ですよ!  
だから右頁は必読です。**



今回から新たな企画をスタートさせます。いろいろな障害者施設を私個人の独断と偏見で障害者分野の仲間として好き勝手に綴ってもらおうという企画です。私たち障害者分野に携わる者の目的・最終到達点はただひとつです。ただそこへの到達の道筋が、事業所には各々独自の特徴があります。今後はそういう想いなども綴って貰えればと考えます。また当事業所は「きょうされん」にも加盟しており、今後もここに加盟されている先で繋ごうと思っています。そしてもうひとつの約束として施設長など重責を担うトップではない方々に、自分たちの言葉で直接生の声を綴って欲しいと企画しました。

第1回目は生活介護事業所「はるの里」にお願いしました。今年念願の新施設を多くの困難も克服し実現されました。私自身は辛く厳しい共同作業所時代の長い歴史の“ほんの瞬きの瞬間”ですが、事業所内部より見せていただきました。新施設を見学すると昔日の感がありますが、職員さんの仲間に接する姿勢は全く同じです。ここが今でも私の共同作業所の原点になっています。 (企画・編集 塩谷)

## 生活介護事業所 はるの里 職員 鶴川 友貴

僕が、職員としてはるの里に来たのは今年の9月でした。初めてはるの里を訪れた時、場所は電話で聞いたり、地図で調べていったのですが、なかなか見つけられませんでした。実は、はるの里の前を3回も通り過ぎていたのですが、それもそのはず(と言ったら怒られますが)、それまでのはるの里は、ごく普通の民家を借り



て、生活介護事業所として14人の仲間が数人の職員と共に日々生活していました。

仲間みなさんは二つのグループに分かれています。ひとつは、「ラッコグループ」。比較的障害の軽く、年齢も若い方のグループです。活発な仲間が多く、その俊敏性を活かして地域にアルミ缶回収に出かけ、回収してきた缶をつぶして業者に引き取ってもらったりしています。もうひとつは、「かめしゃんグループ」。身体障害も加わって、車イスで移動する仲間が多く、年齢も若干高めグループです。毎日、その人に合った距離のお散歩に出かけたり、室内で染め物や織物の制作・作業をしたりしています。

仲間一人ひとりが、生きいきとすごしている中、念願だった「移転」を今年の5月にすることができました。移転先は同じ学区内でさほど遠くなく、建物は移転前と比べると、目が飛び

出るくらい綺麗でした。室内も広々としていて、自然の光が入ってきてとっても明るいです。仲間や職員も新しく加わりました。以前の場所では、狭々しくしていた仲間は、移転先の広い室内では大の字になって寝ころがったりしています。まわりの音が気になっていた仲間も、ゆったりできるスペースがあるので、まわりを気にすることなくすごしています。地域の方たち、保護者の方たち、たくさんの人たちに支えられてこんな素晴らしい場所に移転することができました。

そして、つい先日、移転してから初の「はるの里まつり」を開催しました。今年は「はるの里はこんな綺麗な場所に移転しましたよ」と地域の方たちと交流の場が作られたらとの開催でした。恒例の公園開催から新しいはるの里にかえて、「みなさんがどのぐらいはるの里に来てくれるのか」と不安でしたが、いざ当日、蓋を開けてみると、例年通りはるの里名物「バザーを待っていている人の長蛇の列」がありました。他にも模擬店、ステージでの企画も盛況でたくさんの方にお越しいただいて、移転してもしっかりと地域に根ざしているんだなと実感しました。



まだまだ障害分野は社会に認知されていない部分がたくさんあります。そんな部分を社会全体、たくさんの人々に知ってもらうための運動等をここはるの里から発信できたらと思っています。

# 作物は、植えて・育てて・収穫して・そして販売するこれで完結

## お米完売！ やりましたネ！

今年初挑戦のお米の販売について、職員のみ・田中俊成が感じたことを少しだけ…

去年は野菜だけだったが、いよいよ水田にも挑戦。これは未知の世界で、地主さんや農協さんに教わりながらの経験でした。田植えから刈り取りまでには、台風で倒れたり、いもち病などいろいろありましたが、各種の困難も克服しながら刈り取りにこぎつけました。稲刈りは9月最後の土曜日で、休日の私が刈り取られた米



を見たのは週明けの月曜日。作業場いっぱいに積まれた米を見て、正直「こりゃ大変だなあ」と思いました。それまでは野菜の袋詰め

めしか経験がなかったので、その量に圧倒され呆然とした。袋にして30キロが30袋足らず・800キロ以上。果たしてこれが無事全部売れるだろうかと思いながら、翌日から私に袋詰め**の使命が…やっぱり思ったとおりだ**。1回につき最も多いときで7袋、近所の農協に精米に行く日が続く。それも1人で行くのは大変で、仲間たちと… 精米後持ち帰ったお米を仲間と袋詰め。5キロ・10キロ更には30キログラムなど… 約800キロの米を全て小分けにするのは大変な作業かと思いましたが、普段農作業では直接接しない仲間たちと雑談しながらの作業は、楽しくもあり新たな発見も数多くありました。



——おかげさまでお米は 無事完売！——

ありがとうございました。創刊号に入れた予約票も功を奏したと思うけど、なんと云っても日本

人の主食だし、お米は日々食べるし、考えてみれば完売は当然ですネ。「亀岡のお米美味しかった、また買いたい」との声も多く寄せられ、大変嬉しく思いました。

**米作りは来年以降も挑戦し、さらに品質アップ・収量のアップに努めます。**

**次年度もたくさんお買い求め下さいネ！！**

## 努力してます 買って貰う袋詰め！

次に、野菜の袋詰めについてもちょっとだけ。

私たちは農薬不使用で安心・安全・それでいて美味しくてお求め安い



価格はもちろんのこと、消費者の方々に気持ちよく手に取っていただけるよう、袋詰めにも気を配っています。例えばきゅうりは育ちすぎて大きくなりすぎると商品価値はゼロ。作業は見栄えよく、真っ直ぐなものはそればかり、曲がったものは曲がり揃えて袋詰めをします。なすは風に揺られて擦れると傷がつき、傷が深すぎるものも同様商品価値はなし。傷の浅いものは大きさによって仕分けし、サイズも均一にし、小さいものは数を増やすなど買って貰いやすく、見た目にも美しくしかも特価で販売。当然良品はさらに見栄え良くしています！ その他万願寺とうがらしなどは袋詰め要注意野菜。これは黒ずみの度合いや大きさにも気を使い、同じサイズ・太さなども見極めながらの袋詰め。

最後に野菜の品種や特徴などを入れたシールを貼ります。これが私の袋詰めなんです。

**「たのしくはたらく」の野菜を手にとっていただく方々は、ぜひその袋詰めなどにも注目してみてください。私の努力の跡が見えますよ！！**

## 編集後記

9月終りに居眠り運転におかまされ、まだ首や右肩辺りに激痛が走る。日にち薬は効果なし？病院に通うが不安はつのるばかり。首が痛いから編集者のお役目は休止中。こんな言い訳が通るだろうか？でも痛くて仕方ないし… (T.M)

編集長の変わりを今回は無事終わりました。交通事故は本当に辛い。私も数十キロの距離を毎日通勤しますが今一度気を付けなければ。これからはナベの季節。それら多くの野菜も真冬には全て終了。冬場の仕事作りをどうしよう。(T.S)